

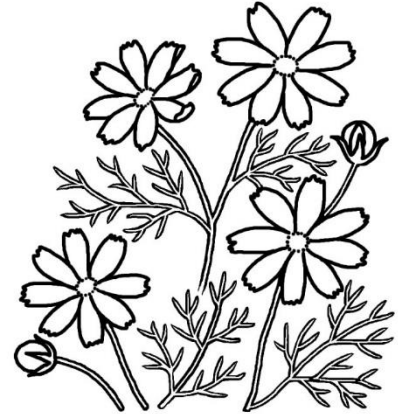


置かれた場所で咲く

「置かれた場所で咲きなさい。」

これは、ノートルダム清心学園理事長の渡辺和子さんのひとつの著書のタイトルです。この「置かれた場所で咲きなさい。」について、著書の中で渡辺さんは、「置かれた場所に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、私は環境の奴隷でしかない。」と記しています。

さて、今年はコロナウィルス感染症拡大防止の観点から、5月に行う予定であった運動会を延期縮小し、「体育発表会」として先日（10月7日）実施しました。学年団ごとに時間をずらしての実施でしたので、体育発表会の時間ではない学年は教室で授業を行っていました。そのため、発表会では、他の学年に配慮してにぎやかな音楽や放送もなく、歓声もほとんどないまま徒競走は淡々と過ぎていきました。しかし、走っている子供たちの顔は真剣でした。学年や学年団で披露した表現も見ごたえのある、そして、すがすがしい態度の演技でした。



今年はコロナウィルスの影響で、この運動会の例のようにいろいろなことに制限がかかっています。「子供たちがかわいそうだ」という声もよく聞きますし、その通りだと思います。ただ、今回の体育発表会で見せた姿のように、南小の子供たちは「置かれた場所でしっかりと咲いている」という事実もあります。

体育発表会には、多くの方にお越しいただき、子供たちの頑張っている姿を御覧いただきありがとうございました。

また、高学年の徒競走では、有志の方にゴールテープや着後の誘導に力を貸していただき、スムーズな運営ができましたこと感謝申し上げます。

半年の 日常を丁寧に積み重ね

10月の声を聞くと、年度の半分が過ぎたことを感じます。いよいよ本年度も後半戦となります。日常を丁寧に積み上げてきた子供たちはそれぞれに成長の跡を見せてくれています。すてきな会稽ができる子、自分から窓閉めをしてくれる子、などなど他にも、素晴らしいです。しかし、私が一番素晴らしいと思うのが、それが一人にとどまらずにどんどん広がっていることです。人に習おうとする謙虚な姿勢は、人間性を豊かにするとともに、今後の伸びしろの源泉になると思います。素晴らしい南小の子供たちです。（校長 上野 明彦）